



オアシス

文責：副学長
桑原雅次

出雲芸術アカデミーだより 2020年12月22日発行 第32号

今年も年の瀬、振り返ってみればコロナ禍に明け暮れた1年でした。本アカデミーでも中止となったり、縮小に追い込まれた事業がありました。また、各講座も一時期開催できなくなったこともありました。そんな1年でしたが、前向きな活動もすることができました。出雲市内小中学校校歌の出雲フィル・チェンバーオーケストラによる録音事業が各方面で話題になりました。そして、レコードコンサートを開催することもできました。コロナに負けないアカデミー精神を次年度でも開花させていきたいものです。

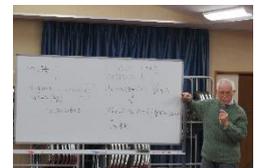
◎ 特別主位研究講座を終えて！

今年は、ベートーヴェンイヤー（生誕250周年）として様々な催しが予定されていたことと思いますが、想像もしなかったコロナ禍の影響が大きく、やむなく中止となった公演も多く見られました。そのような状況下で、本講座に“丸山桂介”氏をお招きし、ベートーヴェンについて様々な方向からお話しいただいたことはとても幸運でした。

講義Ⅰでは、「ボンのベートーヴェン」と題して、ボン時代やウィーンへ活動拠点を移してからの日常生活について、膨大な資料調査から得られた脚色のない本来のベートーヴェンの姿が窺えたことにとても興味を覚えました。社交界に入ろうとして背伸びをしながら頑張っている様子や容姿から浮浪者に間違えられ警察官に逮捕された逸話など、「楽聖」ベートーヴェンとは想像が付きにくい生活に驚きを隠せませんでした。

講義Ⅱは、「ミサ・ソレムニスと第九へ」と題し、交響曲第9番《合唱》へ至るまでの軌跡を聴講することができました。彼がボン時代に出合ったであろうシラーの詩に曲をつけようと何度も試みて永年温めていた構想にミサのテキストが融合し、年月をかけて第九に至る様子からベートーヴェンの生涯を賭けた傑作である事が理解できる講義に感銘を受けました。

講義Ⅲは、「ベートーヴェンを弾く」と題し、実際にピアノ実演を通し、ベートーヴェンの神髄を探求するものでした。ベートーヴェンは何を思ってどんなことを考えながら曲を創ったのか、楽譜や時代背景を紐解きながらの講義はとても興味深く拝聴できました。特に興味を覚えたのは、ベートーヴェンの音楽でテンポ実験をされていた点でした。昨今のベートーヴェン曲は、後々の演奏家によ



てあまりにも美化されすぎている傾向にあり、ベートーヴェン自身が伝えようとした作風からかけ離れている現状をうかがい、考えさせられることしきりでした。その当時の様子を解明する手立てがテンポ実験でした。テンポ感を速めることで、時代背景や彼の日常生活から曲想がマッチしてくる納得の実験結果でした。実際に本アカデミー講師によるピアノ実演で受講できたことも、ベートーヴェンの実像に迫る一因となる講義でした。



3日間の連続講義を拝聴して改めてベートーヴェンの偉大さに気付かされました。後期ピアノソナタや第九が作曲された頃には全く聴覚を失っており、そういう中であの偉大なる曲が生まれたのかと思いを馳せるに、真の芸術性や思想感を受け止めながら演奏したり聴くことを心掛けなければならない事を肝に銘じたいと思います。

◎ 「LPレコードコンサート&音楽サロン」が大盛況！

今年度は、コロナ禍において本アカデミー事業の大半が中止及び縮小に追い込まれる事になりました。そのような状況下において、音楽の灯を絶やさない方法はないかと考えた時、本アカデミーには、前出雲フィル音楽監督や出雲市中央図書館、音楽愛好家の皆様から寄贈していただいたレコードがおよそ 2,500 枚所蔵されていることに注目しました。

かつての偉大な指揮者や名演奏家たちの演奏が生では二度と鑑賞できない中であって、技術の粋が結集されているレコードが数多く存在することに活路を見だし、LPレコードコンサート&音楽サロンを計画しました。

年度途中の企画でもあることから、いきなり一般公開は無理があるため、9月から3回にわたりアカデミー関係者のみで試行を重ねていたところでした。いよいよ第4回は、一般公開となり、出雲市の広報「いずも」12月号で募集をしたところ、18名の申し込みがあり、報道関係者やアカデミー関係者を含め28名の参加がありました。

今回は、12月でもあることから『ベートーヴェンの誕生日に第九を聴こう！』というキャッチコピーを設け、交響曲第9番を中心にプログラムを編成しました。公演前には、ベートーヴェンの小品『ロマンスヘ長調・ト長調』を聴いていただきました。本公演では、まず、ベートーヴェンのピアノ曲から『ピアノソナタ第32番ハ短調』1楽章をウィルヘルム・バックハウスの演奏で提供しました。この選曲にあたっては、中井芸術監督から、第九と同時期に作曲された作品であり、ピアノソナタ第32番のモチーフが交響曲第9番1楽章にも採用されていることが読み取れる作品であると提案していただきました。

2曲目は、いよいよ本題の第九です。『交響曲第9番二短調』《合唱》は、本アカデミーには所蔵レコードが8枚あります。その中から状態の良い4枚を抽出し、中井芸術監督と米山学長に試聴していただいた結果、ザー・ゲオルグ・ショルティエ指揮によるシカゴ交響楽団・合唱団・ソリストの皆さんによる演奏が際立って好感度がよいということで、コンサートで提供する1枚になりました。

今回のコンサートで使用したオーディオ機器については、アンプは「オーディオショップ・フクダ」様から、プレーヤーとカートリッジはオーケストラレパートリー受講生の「牛尾尚義」様からご提供いただきました。その機器に本アカデミー所蔵のタンノイ製のスピーカーに接続して、素晴らしい音質で鑑賞することができました。参加された方々からもコンサート終了時には自然と拍手が沸き起こり、半世紀もの前の名演をいかに再生できる高級オーディオ機器により、ベートーヴェンの曲を堪能した一時を過ごすことができました。



アンケートからは、「過去の名演をきちんと聴くのも貴重」「LPレコードの温かさ・美しさ最高!」「CDと違ってアナログの良さを感じました」「今後、大いに開催してクラシック音楽の紹介の機会としてください」「機器と音色が素晴らしかったです」等々共感していただき、継続開催の要望が多く寄せられました。



音楽は一人で鑑賞するのもいいけれど、多くの皆さんと同じ環境で鑑賞できたことが、企画した側の大きな喜びとなりました。

◎ 『出雲オペラ』 プレ・コンサートを鑑賞して！

3月に公演が計画されている「出雲オペラ」のプレ・コンサートが開催されました。本公演では、マスカーニ作曲、歌劇《カヴァレリア・ルスティカーナ》を上演いたしますが、現在上演されているマスカーニの歌劇は、のちの演奏家たちによって短縮されたり調性の変更されるなど、マスカーニが描いた構想とは違ってきていることがわかってきました。その状況に注目して研究されているのが、本アカデミーの“中井章徳”芸術監督です。その研究の成果として、マスカーニの描いたオリジナル稿が上演されることになり、とても興味深く待ちわびておりました。



プレ・コンサートは、主役を演じるソプラノの“板波利加”氏とバリトンの“蓮井求道”氏によって一場面を抽出した形で演じていただきました。ソプラノの板波氏による豊かな声量にうっとりさせられたり、バリトンの蓮井氏のインパクトのある響きに、聴衆の皆さんもきっと引き込まれたことでしょう…。また、Jr.フィル・ジュニアコーラスの皆さんも聖歌隊として参加され、天使の歌声を披露し花を添えていただきました。プロ歌手と同じ舞台上に立てたことで、オペラの醍醐味を直に感じ取ることができたことでしょう…。

トークの場面では、中井芸術監督の進行により、板波氏と蓮井氏両氏の苦労話や音楽裏事情などが聴けたことも有意義な一時でした。私は、板波氏から「例えうまくいかない時でも、芸術家なら歌い続けること。いつかはきっと実るはず。」また、蓮井氏は宇宙飛行士の例えを引用され、「水と食料と酸素があれば生きられるけど、音楽がない世界は生き甲斐がなくなる。」の言葉が印象に残りました。

現在上演されているアレンジ版とマスカーニの描いたオリジナル版の違いを実際に歌ってくださり、とても興味深く拝聴いたしました。3月の本公演が楽しみです！

◎ 新型コロナウイルス感染症防止対策について

出雲市内でも新型コロナウイルスによるクラスターが発生しました。このことにより、本アカデミーでも「新型コロナウイルス感染症防止対策の指針」（令和2年9月4日作成）をもう一度確認し、感染予防対策を徹底していきたいと思います。

この指針については「オアシス」第29号で要約したものを掲載しましたが、以下に再掲しますのでご理解・ご協力をお願いします。なお、本アカデミーのホームページには、原文を掲載していますのでご覧ください。

1 基本的な事項について

- (1) 「三密」の回避⇒「換気の悪い密閉空間」「多くの人の密集」「密接での会話」
- (2) 体温測定⇒受講日に自宅で体温測定。発熱の場合は受講を控える。
- (3) マスク着用⇒休憩時間、講座の前後はできるだけマスクを着用。
- (4) 消毒⇒手洗いや消毒の励行。
- (5) その他⇒咳エチケットの実践。飲食物の共有を避ける。熱中症対策の徹底。

2 講座について

- (1) 共通⇒演奏時の感染症対策は、専門的な検証を参考に取り組む。
- (2) 講座での普段の過ごし方<アカデミー・ディスタンス>
 - ① 会話をするときには距離をとる。
 - ② 近距離で会話する場合、マスクのできる人はマスクをする。
 - ③ マスクを外しているときやマスクのできない人は、近距離での会話は控える。
※ 感染が心配な場合は、「休学制度」や「特別欠席制度」を活用する。
- (3) 声楽（合唱・オペラ）
 - ① 口形、発音等の確認が必要なことがある時は、マスクを外すことがある。
 - ② 熱中症対策として、こまめに水分補給を行う。
- (4) 器楽（オーケストラ・邦楽）
 - ① 演奏時（講座中）はできるだけマスクを外す。不安がある場合は着用可能。
 - ② 熱中症対策として、こまめに水分補給を行う。
- (5) 幼児科
※ 「(2) 講座での普段の過ごし方」を参考にする。

3 臨時休校等について

- (1) 受講生、講師及び事務局員が感染者になった場合、原則「臨時休校」とする。
期間は概ね2週間。
- (2) 受講生、講師及び事務局員が濃厚接触者に特定された場合、「臨時休校」の措置をとる。感染していた場合は(1)へ、感染していなかった場合は措置を解除。
- (3) 受講中、受講生に発熱や風邪の症状がみられる場合、安全に帰宅させ、症状がなくなるまで自宅休養。